



News Release

nite

2025年10月30日
NITE（ナイト）
独立行政法人製品評価技術基盤機構
九州支所

ストーブとの程よい距離感が大切です ～「電気」「石油」暖房器具の事故を防ぐ4+1のポイント～

1. 事故の発生状況

2020年から2024年の5年間にNITEに通知のあった製品事故情報※¹のうち、九州・沖縄8県で主な暖房器具※²による事故は合計34件ありました。

(1) 県別および年別事故発生件数（表1）

表1 主な暖房器具の県別および年別事故発生件数（2020～2024年）（単位：件）

事故発生年	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	合計
2020年	3	1	2		1				7
（内数）火災	(1)	(1)	(2)		(1)				(5)
2021年	3		1	1	1			1	7
（内数）火災	(3)		(1)	(1)	(1)			(1)	(7)
2022年	5		1	1					7
（内数）火災	(4)		(1)	(1)					(6)
2023年	7	1							8
（内数）火災	(6)	(1)							(7)
2024年	4		1						5
（内数）火災	(3)		(1)						(4)
合計	22	2	5	2	2	0	0	1	34
（内数）火災	(17)	(2)	(5)	(2)	(2)	(0)	(0)	(1)	(29)

※¹:消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故を含みます。

※²:石油ストーブ・石油ファンヒーター、電気ストーブ・電気ファンヒーター、電気カーペット

(2) 県別および被害状況別事故発生件数（表2）

表2 主な暖房器具の県別および被害状況別事故発生件数（2020～2024年）※³（単位：件）

被害状況	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	合計
人的被害	死亡	3							3
	重傷	2							2
	軽傷	2	1	1		1			5
物的被害	拡大被害	9		3	2			1	15
	製品破損	5	1	1		1			8
被害なし・不明	1								1
合計	22	2	5	2	2	0	0	1	34
合計（火災事故）	(17)	(2)	(5)	(2)	(2)	(0)	(0)	(1)	(29)

※³:表2において人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしません。製品本体のみの被害（製品破損）に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としています。

2. 事故事例

(1) 主な暖房器具の事例：2021 年 12 月（熊本県、70 歳代、女性、拡大被害）

【事故の内容】

石油ストーブ及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

使用者が当該製品にガソリンを誤給油したため、異常燃焼が生じて出火したものと推定される。

なお、当該製品の本体、カートリッジタンク及び取扱説明書には、「ガソリン使用禁止」の旨、記載されている。

(2) 主な暖房器具の事例：2023 年 2 月（福岡県、年代・性別不明、拡大被害）

【事故の内容】

電気ストーブを使用中、電源コード付近から火が出て、床が焦げた。

【事故の原因】

本体側の電源コードプロテクター付近に過度な応力が繰り返し加わったため、芯線が半断線し、短絡・スパークが生じたものと推定される。

なお、取扱説明書には、「電源コードは無理に曲げる、引っばるなどしない。火災の原因になる。」旨、記載されている。

3. 事故の実験映像について

事故の実験映像及び写真をご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。
なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構」＋「NITEのロゴ」としてください。

（本件に関するお問い合わせ先）

〒815-0032 福岡県福岡市南区塩原 2-1-28

独立行政法人製品評価技術基盤機構

九州支所 担当者 清水

電話:092-551-1315 FAX:092-551-1329